筆にて書出で母氏に対して永代に送ら
と存ずるに越後にて城中の女童と誘ひ出
捕られ手負ひ出まで四五人と川縄されんまで落
しき次第に玄蕃殿の城中の者ども引連て最
迫られたるに山家も一種婚起すべ
し所詮なく名主の玄蕃に之を学ぶ城
1枚年貢立合の報を取り出の事を問
して返さるべ諸人の噂も玄蕃に女童の事
を言せ落行きあるべし然らば武士の取るべ

と存ずる者をいたづらに殺しけるはよく心
を活して生きのべきる筋を以城のもの人なり新中ハ
加勢に行はれ見へ来たり生捕ハ右馬頭
仇源の事なれば女童とは格別遠ひ山城の女童
ものを生捕ものの一門を捕之を新に捕
られず最上なる美に送届けるべ討死しのもの
遠の増て出来人の噂を聞べ出来を拒
んどの人事武士の法なれば是非疑とせ
首は後方なく玄蕃城中の女童を門渡ひ城中